県かこ 兵庫県立加古川医療センター
地域医療連携ニュース
vol.111
2022年
10.11月号

発　行：兵庫県立加古川医療センター　〒675-8555 加古川市神野町神野 203 番地　http://www.kenkako.jp/
ＴＥＬ：079-497-7000(代表)　ＴＥＬ：079-497-7011(地域医療連携部直通)　ＦＡＸ：079-438-3756(地域医療連携部直通)

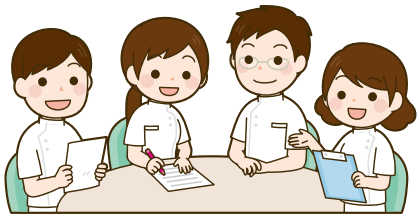
もくじ

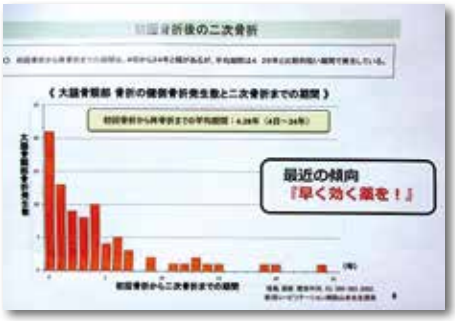
- 東播磨骨粗鬆症地域連携ネットワーク会議 …… 1
- 緩和ケア内科 …… 2
- 皮膚科 …… 3
- 形成外科 …… 4
- 消化器内科 …… 5
- 内視鏡センター / 肝疾患センター …… 6
- 脳神経内科 …… 7
- 外来診療表 …… 8

東播磨骨粗鬆症地域連携ネットワーク会議

年に 3 回開催する東播磨骨粗鬆症地域連携ネットワーク会議を今年も WEB（Hybrid 方式）で 10 月 13 日に開催し、21 施設、59 名の多職種の方々の参加がありました。今年度の診療報酬改定により、二次性骨折予防継続管理料が新設されました。圏域内において患者へ骨粗鬆症薬を継続して提供することなど活発な議論を行うことができました。

また、＜骨粗鬆症患者さんの治療は Exciting! 大腿骨近位部骨折の患者さんは逃がさず、胸腹部 CT で椎体骨折が見つかる患者さんも捕まえる＞をテーマに、香川県立中央病院 リハビリテーション科部長 本田透先生に講演して頂きました。内容は、骨粗鬆症の薬物療法、骨粗鬆症と生活習慣病やがんとの関連など多くの学びがありました。この講演は、日本骨粗鬆症学会認定医と骨粗鬆症マネジャーの教育研修単位付与研修であり、有意義な講演会となりました。





地域医療機関の先生方へ

新型コロナウイルス感染症患者対応のため、ご不便をおかけしました。コロナ禍前の診療体制となっておりますので、ご遠慮なくご紹介をお願い致します。

第 14 回県かこ県民フォーラム開催します。

日時：令和4年12月10日(土)　14時～16時
場所：加古川市民会館

《テーマ》

今日から始める予防医学と新しい治療
～いつまでも元気に暮らすために～

緩和ケア病棟再開のご報告

副院長 兼 緩和ケア内科部長　**酒 井 英 郎**

平素より本院の運営に関しまして、ご指導ならびにお力添えをいただき、誠にありがとうございます。

本院は県指定の新型コロナウイルス感染症拠点病院として、コロナ感染症患者に対応する中で、医療従事者のマンパワー逼迫に直面し、やむを得ず緩和ケア病棟を休棟しておりました。この間、緩和医療を必要とする患者さんのご紹介を中断させていただくこととなり、また一部の患者さんにつきましては他院の緩和ケア病棟をご紹介することとなり、関係者の皆様方には大変なご迷惑をお掛けいたしました。

コロナ感染症に関してはまだまだ予断を許さない状況ではありますが、先生方ならびに患者さんやご家族などのご要望を踏まえ、慎重に検討を重ねた結果、令和４年９月２７日より緩和ケア病棟を再開する運びとなりましたことを謹んでご報告申し上げます。

今後も職員一丸となって地域医療のために努力を重ねてまいります。今後とも、何卒よろしくお願い申し上げます。

皮膚科

地域医療連携部長 兼 皮膚科部長　**足立厚子**

2020年3月頃からコロナ禍が始まり、兵庫県感染症指定病院である当院にも、多くのコロナ患者さんが入院されました。2022年10月現在第7波が収まってきたところです。今はほぼ通常通りの機能を発揮できるようになり、楽しく診療をしています。普段の生活がいかに大切かを再認識しました。当院皮膚科の診療内容を述べます。

スタッフ

常勤医：足立厚子部長、増田泰之医長、山田はるひ医長、熊谷淳医師、永濱陽専攻医。

非常勤医（外来のみ）：高井佳恵医師

認定施設

日本皮膚科学会教育認定施設。日本癌治療学会教育施設。生物学的製剤認定施設。

当院皮膚科の特色

スタッフ・医療機器・設備が充実しているうえ、ベッド数が14床と多く、外来加療困難例には入院加療を施行しています。

内科的疾患の治療

トピックス：アトピー性皮膚炎や乾癬は、治療の選択肢が激増し、治せる時代になりました。

特にアレルギー疾患が得意分野で、じんま疹、金属アレルギー、アナフィラキシー、重症型薬疹、ラテックスアレルギー、食物アレルギー、口腔アレルギー症候群，接触皮膚炎について、原因成分まで決定し生活食事指導、代替品紹介をしています。一部の薬物アレルギーには減感作治療も施行しています。救命用自己注射用キット（エピペン）の処方が可能です。難治性アトピー性皮膚炎にはデュピクセント、ミチーガなどの生物学的製剤、JAK阻害剤その他、難治性慢性蕁麻疹にはゾレアを使用し、軽快する患者様を多く診させていただいています。乾癬・膿疱性乾癬・関節症性乾癬には従来のオクソラレン内服全身光線治療、全身ナローバンド照射とともに、近年使用可能となったオテズラ内服、多種類の生物学的製剤を適切に使用し、著効例を多く診させて頂いています。乾癬は生活習慣病に伴う全身疾患と位置づけされています。個々の患者さんの生活や皮膚および全身状態に合わせ、各々の治療法に伴う副作用にも注意しながら適切な治療をこころがけています。また膠原病、血管炎、類天疱瘡、天疱瘡などの自己免疫疾患、ベーチェット病などの疾患に悩む患者さんが多発しています。臨床・病理により迅速な診断・精査し、入院も含めた加療・長期経過観察をしています。

外科的疾患の治療にも力を入れています

皮膚悪性腫瘍には外科的手術、放射線治療、化学療法により集学的治療をしています。外科的手術、時に炭酸ガスレーザーにより治療し、特に整容面の改善にも心がけています。陥入爪甲にはフェノール法や人工爪、形状記憶合金で加療しています。熱傷、重度感染症・壊死性筋膜炎、壊疽など、必要なときには当院救急部の全身管理をうけながら対応が可能です。

研究会の御案内

加古川医師会の共催をいただき、毎年2回の東播磨皮膚科研究会を当院講堂木曜日夕方に主催しています。また当院褥瘡対策委員会主催の東播磨皮膚・創傷ケア研究会も、加古川医師会、播磨薬剤師会共催にて当院講堂にて毎年開催し、地域の医師、看護師、薬剤師、介護士、ケースワーカーの方々を招待しています。2023年1月26日には第40回東播磨皮膚科研究会を開催し、済生会川口総合病院皮膚科主任部長兼足育研究会・代表理事　高山かおる先生の招待講演を予定しています。近くなりましたらご案内を差し上げます。多数の御参加をお待ちしています。

「創傷外科」と「形成外科」

形成外科部長　**櫻井敦**

「創傷外科」は、あまり聞き慣れない名称ですが、簡単に言うと傷（キズ）と傷跡を治す外科のことです。再建外科、美容外科と並んで、形成外科学を構成する重要な要素であり、われわれの得意分野でもあります。対象となる疾患は様々であり、熱傷・外傷などの急性創傷は勿論のこと、褥瘡・下腿潰瘍などの慢性創傷、ケロイド・肥厚性瘢痕に至るまで、創傷治癒の基本的な概念（TIME 理論、Moist wound healing、Wound hygiene など）を踏まえながら、機能的、整容的に配慮した加療をおこなっております。また、当院は３次救急受け入れ施設となっておりますので、様々な創傷に対して、救急科、皮膚科、整形外科等の先生方と協力して日々診療に当たっております。

形成外科では先天奇形を含めた様々な分野の疾患を扱いますが、いわゆる外傷（ケガ）は日常診療において頻度が高い疾病であるため、創傷外科領域は非常に重要と考えております。特に急性創傷に対して適切な初期治療をおこない、傷の方向性を大きく変えられたときなどは、その重要性を再認識させられます（図 1, 2)。また、目立ちやすい縫合創、術後創であっても、比較的早期に適切な治療をスタートすることで、大きな改善が見込まれることから（図 3)、他の疾病と同様に早期診断、早期治療が肝要と考えます。

以前は、「怪我をしたのだから、手術を受けたのだから、これくらいの傷跡はしょうがない。」とあきらめておられる方も多かったようです。その一方で傷跡があるから、服装や髪型を選べない、外出がおっくうになる、傷の拘縮（ひきつれ）で機能的な障害があるといったように、生活の質（QOL）の低下に苦しむ方が多くおられたのも事実です。しかし、適切な初期治療（保存的治療、外科的治療）に加えて、二期的に局所療法（注射、圧迫固定等)、瘢痕修正術等を駆使することにより、症状の改善が見込める場合もあります。（図 4）また、当科では褥瘡、難治性潰瘍に対しても手術療法を含めた積極的な加療をおこなっております。（図５）

近年、インターネットを含む高度情報化社会の中で、形成外科が徐々に認知されるに伴い、外傷後や術後の傷跡を気にされて当科を受診される方が増加しています。傷跡を早く、きれいに治すことは社会的なニーズであると同時に、我々形成外科に課せられた使命であると認識し、日々研鑽を積んで参りますので、お困りの症例がございましたら、ご紹介頂けますと幸いに存じます。

図1 裂創

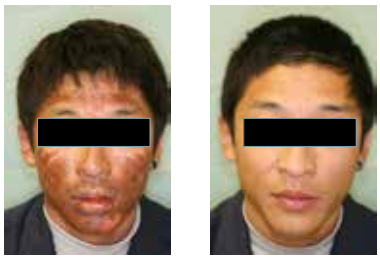


図2 火炎熱傷

図3 他医で縫合後、当科を受診

図4 熱傷による瘢痕拘縮（2～4指）

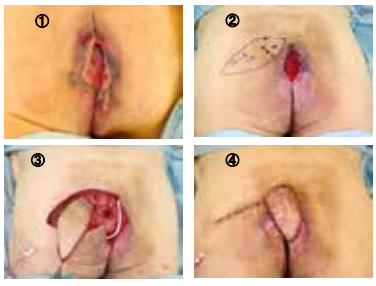


図5 褥瘡に対する手術療法

消化器内科

副院長 兼 消化器内科部長　**廣畑成也**

特　色　現在常勤スタッフ 7名、専攻医 3名で診療を行っています。4月より加古川中央市民病院より田村勇先生がスタッフとして加わりました。

● 肝癌の治療法が大きく変化しています

当院は兵庫県肝疾患専門医療機関に指定され、東播磨地区の肝疾患診療の中心施設として位置づけられています。肝疾患センターを設置し、地域の先生方よりご紹介いただくあらゆる肝疾患に対応できるようにしています。肝癌は次々に新しい全身化学療法治療薬が開発され、特にアテゾリズマブ＋ベバシズマブ併用療法は肝癌治療に大きな変化をもたらし、当科でも積極的に導入し良好な治療成績を得ています。今後もあらゆる肝疾患に最新の治療で対応すべく当地域の中核医療機関としての役割を果たしていきたいと思いますので引き続きのご紹介よろしくお願い申し上げます。

●内視鏡による早期癌の診断と治療が進歩しています

消化管癌の早期発見、悪性度・範囲診断に欠かせない NBI 搭載内視鏡システムを 3 台常設し、常時拡大内視鏡にて精密な観察・診断を行っています。早期癌の場合、内視鏡的粘膜下層切開剥離術（ESD）で1週間の入院で治療可能です。緊急例を含め今後も積極的に内視鏡検査に対応してまいりますので、症例のご紹介をよろしくお願い申し上げます。

● 超音波内視鏡検査が充実しました

神戸大学の協力で超音波内視鏡検査の件数が大幅に増加しました。また超音波内視鏡下生検も積極的に行い膵腫瘍や胃粘膜下腫瘍の正確な診断が可能となりました。

●「当日胃カメラ枠」再開しました

上部内視鏡検査をお急ぎの時にご利用いただいていた「当日胃カメラ枠」をコロナ収束により再開しています。地域医療連携室を通じて予約可能ですのでご利用よろしくお願い申し上げます。

＜地域医療機関の先生方へ＞

新型コロナへの対応のため一部診療を制限せざるを得ない状況が続き地域の先生方にはご不便をおかけしていましたが、ようやくコロナ禍以前の診療機能を取り戻しつつあります。今後とも、緊急例、診断困難例はもちろん、検査のみのご要望でも積極的に対応してまいりますので、ご遠慮なくご紹介いただければ幸いです。今後ともよろしくお願い申し上げます。

■スタッフ

尹　聖哲	副院長（診療担当）兼肝疾患センター長兼消化器内科部長	昭和57年卒
廣畑 成也	副院長(診療支援担当)兼栄養管理部長兼消化器内科部長	昭和60年卒
垥本 喜雄	部長（内視鏡・超音波担当）兼内視鏡センター長兼消化器内科部長	平成6年卒
田村　勇	消化器内科部長	平成14年卒
白川　裕	消化器内科部長	平成18年卒
岡田 寛史	消化器内科医長	平成25年卒
渡部 貴文	消化器内科医長	平成27年卒
吉治　誠	消化器内科専攻医	平成30年卒
籠重 大輔	消化器内科専攻医	平成30年卒
河原慎一郎	消化器内科専攻医	令和2年卒

■検査・治療実績（2021 年度）

上部消化管内視鏡検査	2184
緊急内視鏡(止血術含む)	55
緊急止血術	50
食道静脈瘤結紮術(EVL)	23
内視鏡的粘膜下層切開剥離術(ESD)	48
胃瘻造設術	8
下部消化管内視鏡検査	1354
止血術	18
ポリープ切除術(EMR&ポリペク)	389
内視鏡的粘膜下層切開剥離術(ESD)	14
ERCP	109
胆道ドレナージ(ERBD/ENBD)	46
胆管結石砕石・除石術	45
EUS	123
EUS-FNA	15
小腸カプセル内視鏡	6
腹部超音波検査	3005
造影腹部超音波検査	55
肝生検	42
肝炎抗ウイルス療法新規導入	15
経皮的肝ラジオ波焼灼術（RFA）	25
経カテーテル的肝動脈塞栓療法	51
肝癌分子標的薬導入	22

内視鏡センター

内視鏡センター長 兼 消化器内科部長　**垰本喜雄**

2018年4月1日に内視鏡センターが設立されてから4年6ヶ月が経過しました。2020年3月からはコロナ感染症対応に追われる日々でありますが、withコロナで臨機応変に対応し、afterコロナを見据えて頑張っています。院内では消化器内科以外に消化器外科、救急科、総合内科などと広く協力して内視鏡診療に取り組んでいます。医療レベル向上のため神戸大学の胆膵グループから超音波内視鏡医を派遣してもらい指導を受けたり、消化管病理の専門医を招いてカンファレンスを月1回開催したりしています。地域医療連携を通して近隣の病院・医院へ積極的情報発信し、開業医から直接紹介して頂いて当日内視鏡施行するシステムも再開しています。詳しくは加古川医療センターのホームページをご参照ください。

内視鏡センターでは、最新の機種を取り揃えて最先端の技術を提供できるように準備しております。日常診療では、見逃しの無い検査を行うためにハイスペックな拡大観察できる内視鏡をほぼ全例に使用しています。また毎年受けても大丈夫のように安全で苦痛の無い内視鏡検査を心がけています。患者さんの不安をできる限り取り除けるように、プライバシー保護にも心がけています。当院は、日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設・日本消化器病学会認定施設に認定されています。図書の充実（胃と腸、肝胆膵など）、検索の充実（UpToDate, ClinicalKeyなど）にも力を入れ、内視鏡のトレーニングモデルも取り揃えています。内視鏡専門医を目指す医師の教育・育成に力を入れています。

またＥＳＤ･ＥＭＲ･ポリペクやＥＶＬや胃瘻造設などの通常内視鏡治療はもとより､緊急内視鏡（止血術や異物除去など）から食道ステント・大腸ステント挿入などの緩和的処置まで対応しており、臨床的な貢献は多岐に及んでおります。

消化器内視鏡の魅力の一つは、診断して治療するところまで自己完結できるところでしょう。例えば、内視鏡を用いて早期の胃がんを自分で見つけて自分で治療できるところなどです。我々医師・看護師を含めた内視鏡スタッフは、内視鏡を通じて皆様の元気と幸せに貢献できることを目標に日々精進している次第です。

病診連携に支えられる肝疾患センター

副院長 兼 肝疾患センター長　**尹聖哲**

当院の肝疾患診療は、急性肝炎から肝癌に至るまですべて病診連携によって支えられています。急性肝不全においては、地域の先生方から早期の段階でご紹介いただいていますので、迅速に受け入れ、保存的治療に限界がある場合には神戸大学病院と綿密な連絡を取り合って肝移植の適否を判断しています。ウイルス性肝炎においては、地域の先生方の協力で多くの患者さんの予後が改善されましたが、まだ未治療の患者さんが残されているため患者の掘り起こしに注力しています。また近年は、非アルコール性脂肪肝疾患が増加しており、無症状であるがゆえに診断や治療介入が遅れてしまうことが危惧されるため、患者さんにも病気の知識や理解を深めていただけるよう努めています。新型コロナでしばらく休止していました肝臓病教室を4月から再開し、生活習慣病センターと連携して広報活動や生活習慣の介入を行っています。さらに多職種の肝炎医療コーディネーターが加わって患者さんの病気に関する相談や肝炎・肝癌治療のサポートを行っています。当センターは地域の先生、患者さんと一緒に病気に取り組むことを目指していますので、お気軽にご相談ください（窓口は肝臓専門医）。

コアスタッフ

- 肝臓専門医・消化器内科専門医
- 肝炎医療コーディネーター
- 消化器内科外来スタッフ（兼任）
- 生活習慣病センター認定専門看護師（兼任）
- 生活習慣病センター肝臓チームスタッフ（兼任）

脳神経内科

脳神経内科部長　**木村健一**

現在、当科は常勤医１名と非常勤医１名を中心として診療にあたっております。加古川など東播磨地域でも脳神経内科医数が徐々に増加し、脳神経内科の認知度も増してきています。脳神経内科は脳、脊髄、末梢神経、筋肉に起こる病気の診断および内科的治療を行う診療科です。頭痛、脱力、ふるえ、しびれといったよくある症状を対象とします。気分や精神的な問題は心療内科や精神科が専門的に診療されます。

スタッフ

木村　健一（平成５年卒）
末廣　大知（平成 26 年卒）（非常勤）

認定施設

日本神経学会準教育施設

主な対象疾患

① **脳血管障害**：脳梗塞、一過性脳虚血発作や脳出血などがあり、脳神経外科とも連携し診療します。
② **神経変性疾患**：パーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症、アルツハイマー病など。
③ **神経免疫疾患**：多発性硬化症や重症筋無力症など、免疫の異常で起こる病気でステロイドなど免疫抑制剤による治療を行います。
④ **神経感染症**：脳炎、髄膜炎など、抗菌薬などで治療を行います。
⑤ **筋疾患**：筋ジストロフィーや筋炎などがあり、大学病院等とも連携し筋電図や筋生検にて診断します。
⑥ **末梢神経疾患**：神経伝導検査などにて診断し、遺伝性のものもありますが、ギランバレー症候群など免疫の異常で起こるものは免疫グロブリン療法など免疫療法を行います。
⑦ **発作性疾患**：てんかん、片頭痛など脳波や MRI などにて診断し、各病型に応じた薬物治療を行います。
⑧ またその他内科疾患に伴う神経症状に対し診断、治療を行います。

脳神経内科は認知症、脳卒中、てんかんなど頻度の高い疾患も対象とします。当院の主な診療機能の一つに神経難病医療の提供を挙げていることから、当科では、パーキンソン病、脊髄小脳変性症、多発性硬化症、重症筋無力症など、神経難病の診療向上に努めていきたいと考えています。今後とも宜しくお願い申し上げます。

県立加古川医療センター外来診療表

令和４年10月３日（月）～

			月	火	水	木	金
総合内科	初診		石田	大北	藤田		中村
消化器内科	１診		垰本(さかもと)	【尹(ゆん)】(再診のみ)	田村	【尹(ゆん)】(再診のみ)	垰本(さかもと)
	２診		廣畑	岡田	廣畑(午前)	廣畑	吉治(午前)籠重(午後)
	３診					担当医	岡田
循環器内科	１診		福田	担当医(～14時)	岩田	片嶋	岩田
	２診		【禁煙】			【ペースメーカー】	笠松
脳神経内科			木村	木村	木村		末廣
糖尿病・内分泌内科	１診		飯田	藤田	飯田	石田	樫谷
	２診			【後藤】	齋藤(午前)藤井(午後)		稲山(午前)津本(午後)
緩和ケア内科	入棟面談		担当医		担当医		担当医
	サポーティブケア外来(緩和ケア外来)		田中		田中		田中
生活習慣病			【尹(ゆん)】肝炎	【戎谷(えびすたに)】糖尿病・肥満	【合田】糖尿病・肥満	【石井】糖尿病・肥満	
			【福田】禁煙	装具外来			
リウマチ科	１診		田中	田中	田中	田中	担当医1
	２診		村田	塩澤	塩澤	村田	担当医2
	３診		西田	吉原	吉原	吉原	担当医3
	４診		中川	【上藤】	村田		中川
	５診		天野	西田			天野
腎臓内科	１診	午後		加藤		加藤(1,3,5週)	
外科・消化器外科	１診		髙瀬	川嶋	小林	担当医	髙瀬
	２診		多田羅(たたら)	谷川	門馬(もんま)		宮永
心臓血管外科				担当医			担当医(午後)
脳神経外科	１診		担当医	荒井	森下	担当医	荒井
	２診			梶本	荒井		梶本
乳腺外科	１診		石川	石川		石川	担当医
	２診		小林	加藤		小林	
整形外科	初診１診		青木	上藤	高山	西原	中川
	初診２診		高原		北山	神村	
	再診１診		【上藤】	中川	原田	【高山】	
	骨粗鬆症	午後	【上藤】				
形成外科	１診		櫻井	交代制	櫻井	櫻井	櫻井
	２診		谷口		谷口	谷口	谷口
	３診		【伊藤】		【伊藤】	【伊藤】	【伊藤】
皮膚科	初診／予診		【永濱】	【熊谷】	【高井】	【山田】	【永濱】
	１診		山田	足立	足立	増田	足立
	２診		熊谷	永濱	増田	熊谷	山田
眼科	１診		薄木	薄木	石川	薄木	薄木
	２診		徳川	徳川	徳川	石川	石川
	３診		秋田		秋田	秋田	
泌尿器科	１診		丸山	佐藤	田中	丸山	田中
	２診			大場			大場
放射線科	(IVR)		担当医		担当医		担当医
	(治療)		担当医	担当医	担当医	担当医	担当医

予約受付時間　平日 9：00 ～ 18：30　土曜日 9：00 ～ 11：30(祝日除く)

※各科診療予定は変更される場合がありますので、あらかじめご了承願います。
※【　】は予約できませんが、特別に受診を希望される場合等は、ご連絡下さい。

お願い 患者さんの待ち時間短縮のため、FAX またはインターネットで初診予約をお取り下さい。
インターネットで初診予約を行う場合は、登録医の登録をお願いします。